

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人恵仁会の中で最も小さな施設ではあるが、母体の鹿屋長寿園や隣接する病院の協力を頂きながら、本人や家族の要望を聞き入れながら最後まで支える援助を行っている。
平均介護度も高くなっているが、家庭的な生活を支える為に可能な限り、季節を感じる食卓の提供を行っている。
車椅子対応の利用者さまが多くなってはいるが、母体の力を借りての外出支援・音楽療法・理学療法士のアドバイスを受けながらの自立支援の援助に力を入れている。
利用者様の重度化は否めないがその生活の中には、職員も利用者様も笑顔が絶えない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は社会福祉法人が運営するグループホームである。同法人は、特別養護老人ホームやデイサービスセンター、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所などを運営して、地域の高齢者福祉の大きな役割を担っている。敷地内には協力医療機関もあり、訪問看護ステーションとの連携も図られて、定期的な受診や緊急時の対応などの医療のバックアップ体制が確保されている。災害時の相互協力関係も構築されている。

・職員育成にも力を入れており、研修会などへの出席を奨励し、資格取得に向けた支援を行い、職員の働く意欲を引き出している。職員は介護の実務経験が長く、有資格者が多数いる。

・災害対策として定期的な訓練と安全対策の整備がなされ、具体的な改善については運営推進会議での助言を活かしている。

・地域交流を積極的に進めて、認知症対策や介護支援の情報発信の場となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は運営上もっとも重要でケアの根幹である。地域との交流を大切にしながら、安心して暮らせる家作りを目指した理念としている。	理念は、玄関に掲示し、いろいろな機会に確認し合っている。地域密着型サービスを提供するための、具体的なケアについて職員の意思の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、事業所の特色を生かし、情報の提供や敬老祝賀会、小中学生の職場体験等積極的な受け入れを行っている。	地域の運動会や棒踊りなどに利用者と参加したり、保育園や小学校との交流、中学生等の職場体験学習も受け入れている。町内会に加入し住民からの認知症相談にも対処するなど、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	大隅地区介護事業所連絡協議会の会長の施設としての自覚に立ち、セミナーをはじめ、看護学校・短大生等を積極的に受け入れ、認知症の理解の為、協力を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の代表や地域包括支援センター職員、市の職員が出席しており、問題提起を行い、それぞれの立場から意見を頂き、また、情報を共有する事により、解決の糸口を探している。その情報は運営に役立っている。</p>	<p>会議は定期的開催し、事業運営や外部評価結果の報告を行い、現在取り組んでいる内容についても、意見をもらっている。また、避難訓練について意見や気づきなどを話し合い、運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の高齢福祉課や地域包括支援センターと共に、地域の認知症の理解の為にキャラバンメイト連絡会に参加し、鹿屋市の認知症の理解の為に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>市とは日頃から協力関係を築き情報を交換してアドバイスを受けている。市と共にキャラバンメイト連絡会に参加し、認知症の理解のためにセミナーを数回開催する等、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、「してはいけない」ことの認識を、毎月のミーティングの中で確認しながら、利用者様に対しては援助の工夫を行っている。</p>	<p>日中は玄関の施錠をせずに、職員間の連携で見守りに努め、安全で自由な暮らしが保たれている。身体拘束廃止委員会が設置され、研修会に参加したり、定期的な勉強会を実施し、共通認識を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内外の研修に参加し、毎月のミーティングの中でも話題を提供し、虐待防止の共通認識を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の研修に参加し、家族からの相談にも応じている。現在この制度を利用されている家族はいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は重要事項の説明を行い、契約の締結を行っている。また、また、料金改定などは家族会を開催し、説明と同意を得ている。面会時は家族へ声掛け、要望や質問等をお聞きするように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームには意見箱を設置し、相談苦情委員会を設けている。家族会や面会時は声かけし、意見等を吸い上げる努力をしている。意見等は法人内の会議や毎月のミーティングで話し合い、運営に反映させている。	日頃から意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。利用者からは日々の関わりの中で思いを聞き、家族からは、家族会や面会時の機会に聞いている。毎年食事会を兼ねて家族交流会を行っており、信頼関係が持てるよう努めている。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の施設在宅会議での内容の説明や、報告を行うと共に、職員からの意見や要望も吸い上げ会議の中で提案出来る環境が整い反映出来ている。	管理者は、申し送りや会議・ミーティング等で意見や気づきを聞く機会を設けている。相談事は個別に聞き、適切にアドバイスをを行い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎年1回は自己評価表の提出と共に面接を行い、職員の意見を吸い上げている。その能力に応じ、昇給を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人又は経験年数に応じた研修に参加して頂く事により、職員のスキルアップを図っている。また、業務の中で生じる適切な介助については個々の癖と体力を考慮し、適宜、アドバイスをを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、セミナーや研修会等を開催。同業者との交流会の機会を得る事で交流の場としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は本人、家族に見学に来て頂く他、担当ケアマネージャーさんへの情報提供により、本人が不安を感じることなく入居出来る環境を整えている。職員は常に笑顔で接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対してはふれあいの生活を十分説明し、納得を頂くように努めている。面会時間、電話の受付等時間を定めず、希望により、宿泊して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される本人の生活歴や希望をお聞きし、ケアプランに反映させている。病院が近い為に医療ニーズの高い利用者様にとっては家族の精神的な負担軽減につながっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は模擬の家族である事から、職員はその能力に置いて、負担にならない手伝いをお願いする事で利用者自身の達成感を引き出している。それが笑顔の根源と考える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来宅時はお茶でおもてなしする事は勿論、写真に収めながら、家族との絆を大切にするお手伝いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使いたものは持参して頂いている。近所の方が面会に来られない方に対してはこちらから出向き、面会の機会を提供している。	行きつけの美容院や馴染みの友人・知人との継続的關係が途切れないよう働きかけている。墓参や自宅訪問など本人や家族の希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調不良以外は食事やお茶は、食堂で全員で頂いている。性格的に合わない利用者様もいらっしゃるので席の配置には考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても職員は病院や施設を訪ねることもある。家族との関係は保ち、相談や支援に努めている。家族は気軽に訪ねて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で希望を伝えられる方に対してはケアプランに反映している。自分で訴える事が出来ない方に対しては家族の希望や本人の表情を確認しながら笑顔が引き出せる援助に努めている。	家族からの情報を得ながら、利用者との会話や表情から思いや意向を確認している。意思疎通が困難な場合は、家族と話し合い、職員間でも情報交換をして、本人中心に支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者は過去の生活歴や暮らしが大きく影響する事から、家族や知人が来宅された折は情報を集め、職員間で共有し、援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が個々の利用者の把握に努め、食事、睡眠、排泄等の引き継ぎを密に行う事で、スムーズな病院受診に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、本人・家族の意見を反映している。モニタリングについても毎月全員で行い、職員やPTの意見を取り入れながら、利用者が楽しく生活出来る介護計画となっている。	本人や家族の希望を大事にした介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、職員全体でカンファレンスを行い、情報を共有している。状況の変化時は、その都度計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングはもちろんだが、日々の小さなヒヤリ・ハットやアクシデントも、職員間で情報を共有しながら素早い対応で事故や病気を引き起こさない実践。介護計画になるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長く生活される利用者にとって家族の状況が変わる事も多く、全てをひっくるめての援助が必要になっている方には、職員は常に優しく対応できている。小さな施設では対応できない事が多くなり母体の男性の援助を頂き、外出する事が多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と合同の行事を開催し、繋がりを大切にしている。火災避難誘導訓練には地域の協力も頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては家族の意向を大切にしている。検査・説明等は病院の意向で家族の協力を頂いている。	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。定期的な受診や通院介助も支援している。緊急時は、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携を図り、適切な医療を提供する支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回訪問看護師の来宅時、個々の利用者の状況についての相談を行い、病院受診等のアドバイスを受け、重症化しない様な取り組みを行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は入院サマリの記録と共に情報提供に努めている。入院時は洗濯の援助と共に看護師と親しく情報の交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者の重度化については、入居時に家族の意向をお聞きしている。しかし、家族の意向もその時々に応じて変わる事から、本人の状況を毎月写真に収め、日常生活の様子をお知らせしている。終末期は訪問看護師や主治医と連携した援助に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書をもっている。また、状況に応じて繰り返し意思を確認している。職員全員がその方針を共有している。既に、看取りの取り組みがされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内の勉強会で年に1回は消防職員による研修会を行っている。また、マニュアルの作成や壁に緊急時の連絡先も明記している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災消火避難誘導訓練を行っている。また、訓練に際しては、地域住民の協力を頂いている。	年2回、消防署の立ち会いのもと、避難誘導訓練を実施している。訓練後に運営推進会議を行い、意見や助言を聞き対策が取られている。隣接する母体法人の施設職員や地域住民の協力を得ている。スプリンクラーも設置され、災害時の備蓄もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様はかつて社会生活が営んでいた為に、それなりのプライドもある事から、職員はプライドを損ねる発言で周辺症状が悪化する事を自覚しているのので、優しくユーモアのある発言に気をつけている。	個々の利用者の人格を尊重し、プライバシーを大切にケアに取り組んでいる。法人内の研修やミーティングなどで勉強会を行い、さらなる向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの根幹はパーソンセンタードケアの為に、可能な限り希望をお聞きしている。伝えることの出来ない方に対しては表情から思いをくみ取る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかに決まっているが一人ひとりの体調等を考慮して、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の要望により美容室に出掛けたり、美容部員さんのボランティアで眉カットや化粧をして頂く事もある。おしゃれに興味のない方もいらっしゃる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食卓を提供する努力をしている。特に誕生会や外出の弁当などは利用者の要望をお聞きし、提供している。利用者の重度化で一緒に行動できる人は少ないが、盛り付け等、出来る人には手伝いを頂いている。	利用者の嗜好に配慮した献立を工夫している。彼岸のおはぎを作って季節を感じたり、誕生会で食べたいものを提供したり、外食に出かけ食事が楽しみなものになるよう工夫している。準備や後片付けを職員と一緒にいたり、口腔ケアを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重の増減を目安に、排泄管理、水分管理、食事の状態に気配りしている。水分は大切な事から夜間等の水分補給も可能な限り援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自歯の方は声掛け、点検をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のオムツ代は自己負担である事から、可能な限り、トイレで排泄して頂いている。定期的に排泄の声かけ援助で、次第に下肢が丈夫になっている。	個々の排泄パターンを把握し、排泄チェックで職員のこまめな声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。ヨーグルトやお茶で食生活を工夫し、立位援助と自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日欠かさず、それぞれの個人の体調等に合わせた緩下剤も、薬だけに頼らずお茶等も利用している。食卓にふんだんの野菜を提供する努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望や体調を考慮している。入浴は皆様好きなので午後から行事がある時は午前中にする事もある。散歩が好きな利用者様が多い為に入浴は午後から行っている。	個々人の希望に沿った時間に入浴ができるように支援している。入浴剤を使用したり、入浴を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の利用者が多い為に午眠は欠かせない。夜の安眠の為に日中は散歩や穏やかな生活の援助を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関して疑問に思った時は薬剤師に相談できる環境にある。本人の病気や薬の理解が出来る話題の提供と情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は皆、優しく声かけしながら、洗濯物を広げて頂いたり、たたんで頂いている。常に感謝の言葉を忘れない。午前・午後のお茶の時間も工夫しながら楽しくお茶が飲める環境を整えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車椅子の利用者が多く、外出が少なくなっている。母体の職員・車の提供で花見・ぶどう狩り・初詣等は出来ている。家族の要望に対しては、車椅子対応の車があるので容易に出来ている。	一人ひとりの楽しみごとに合わせて、近隣を散歩したり、ドライブを兼ねた買物や月1回の外食に出かけたりしている。さらに計画的に花見など家族も一緒に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持って買い物をされる利用者も少なくなっている。買い物に出掛け自分でお金を出せる人には出して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族へ電話をしたい希望の人に対しては支援している。贈り物等が来た時、お礼の電話で会話出来る方に関しては会話して頂いている。手紙を書ける人はいない。手紙が来た時は読んであげている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に温度・湿度に配慮し不快にならないように気配りしている。可能な限り季節の花を生ける努力はしている。居室で休みたくない利用者は居間のソファベッドで休まれる方もいらっしゃる。</p>	<p>換気や採光・温度・湿度に配慮し、清潔で明るい。ピアノがあり演奏を楽しめる。廊下が広く車椅子の行き来に余裕がある。中庭には季節を感じさせる工夫がある。ソファを多数設置しており、廊下にも配置されて、思い思いの場所でくつろげるように配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にソファベッド・廊下にソファ等を置き、自由に過ごせる空間はあるが、ほとんど車椅子の為に利用できなくなっている。車椅子で場所移動を行いながら過ごされる光景は見られる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、家族にお願いしながらなじみの物を持参頂いている。本人の身体状況でベッド配置等は職員が決める事もあるが、家族はいつでも泊まる事が出来る事をお伝えしている。</p>	<p>床はフローリングで滑らないように工夫がしてあり、利用者の使い慣れた品物や位牌等も持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体状況に合わせて、可能な限り自立した生活が出来るように、介護用品を駆使している。特に排泄に関してはトイレを利用出来る工夫を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない